

I 実践

1 研究主題

誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合い、粘り強くやり遂げる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる一かしく やさしく たくましく」を教育目標としている。これを受け、人権教育部として、「誰に対しても思いやりの心を持ち、皆と仲よくできる子を育てる。」「仲よく助け合い、粘り強くやり遂げる子を育てる。」の2点を目標に掲げて取り組んできた。

本校の児童の多くは、活発で素直であり、友達と協力して学校生活を送ることができる。しかし、中には友達のことを傷つけるような言動が見られることがある。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さをお互いに認めること』ができる児童を育成したいと考える。

(2) 研究内容

- ア 人権意識を高めることができる環境づくり
- イ 豊かな心を育む体験活動の充実

2 実践内容

(1) 人権意識を高めることができる環境づくり

ア いじめ ZERO 集会

新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年実施してきた集会形式を見直し、朝の活動の時間に坂本委員会の児童が、いじめに関する集会を行った。

まず、いじめの定義を周知した。次に、いじめに関する紙芝居を発表し、身近なところにもいじめに繋がるような言動があること発表した。そして、毎月行っているアンケートの結果を確認し、いじめ ZERO を目指す意欲を高めた。



坂本委員会が作成した紙芝居

イ 人権週間の設定

11月30日(月)～12月4日(金)までを人権週間とし、人権啓発活動の一環として、人権教育に関するDVD(どんぐりの森へ、いじめはゼッタイにわるい、小学生のための人権パート2)を視聴した。視聴後には、感じたことやこれからどのような自分になっていきたいかなど、それぞれの思いをメッセージに残した。また、メッセージは教室に掲示し、いつでも振り返れるようにした。



メッセージ

(2) 豊かな心を育む体験活動の充実

ア 福祉体験（令和元年度）

4年生は総合的な学習の時間に福祉をテーマにした学習を行っている。日立市社会福祉協議会の協力を得て、福祉体験を行った。車いす体験、高齢者疑似体験、盲人体験を通して、からだの不自由な人の生活の様子を学んだり、理解を深めたりし、思いやりの心を育てるとともに、誰もが住みやすいまちづくりにするにはどうすればよいかについて考えることができた。

イ 地域高齢者との交流（令和元年度）

4年生の児童が、地域の高齢者とふれあったり、会食をしたりする「ふれあいサロン」（坂下地区地域福祉局との共催）を行った。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、ダンスや歌、じゃんけんゲーム、似顔絵リレー、会食など楽しい時間を共にした。高齢者の方々に真心をもって接したり、手を差し伸べたりするなど、助け合うことの大切さを身をもって体験することができた。

3 成果

- (1) 「いじめZERO集会」や「人権週間」の取組を通して、友達と仲よく過ごすためには、相手の立場に立って考えることや思いやりの心をもって接することなどが大切であることに気付くことができた。児童一人一人が人権問題について真剣に考えたことで、人権問題に対する意識の高まりにつながった。
- (2) 学校や地域で行う行事や地域の方々との体験を通して、相手を思いやる気持ちや助け合う心が育ってきている。また、友達との関わりの中で、学習・生活全般を通して、友達を思っって行動したり、友達に気遣ってもらうことで、友達のよさを発見したり、自己肯定感の高まりが見られたりなど、児童同士の関わりの中で、豊かな心が育ってきた。

II 今後の課題

人権教育を行うにあたって、教員自身も人権教育の意識の向上が必要だと考える。そのために校内研修を行ったり、人権教育の意識の醸成に努めたりしていく。さらに、保護者への啓発も図り、学校と家庭・地域が連携、協力しながら人権教育活動の幅を広げていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



人権コーナー



学級の道徳コーナー